

シライ電子工業 (コード 6658・ジャスタック)

業績推移(連結) (予想は会社発表分、赤字、伸び率は前年同期の黒字額、配当性は連結ベース、単位:百万円、%、円)

決算期	売上高		経常		一株当たり		配当 性向	売上高 経常利益率
		伸び率	利益	伸び率	純利益	配当		
09.3	26,568	-19.5	831	8	114.8	0.0	-	-
10.3	21,008	-20.9	242	-	26.4	0.0	-	-
11.3(予)	22,500	+7.1	150	-	7.2	0.0	-	0.7

両面・多層板を中心にプリント配線板事業を展開

特色...両面・多層配線板が主力製品のプリント配線板メーカー。国内外に生産拠点を持ち、国内の生産管理センターと中国の現地法人とが連携して、顧客の製品仕様や品質・納期などに関する情報を管理するなど、顧客のきめ細かいニーズに対応している。同社製品は、カーエレクトロニクス関連、デジタル家電関連、電子応用関連、アミューズメント関連、ホームアプライアンス関連(冷蔵庫・エアコンなど)、通信・事務機器関連など、幅広い産業分野で採用されている。

10年3月期はコストダウン効果などで営業黒字化

減収でも営業黒字に転換...10年3月期は、国内外とも景気の本格的な回復には至らずに厳しい受注環境が続いたことや、同社の主力分野の一つであるデジタル家電関連が製品価格下落による同業他社との価格競争を回避したことから、売上高は09年3月期比20.9%減となった。国内外別では、国内で在庫調整が一巡したカーエレクトロニクス関連を柱にデジタル家電を除くその他の分野からの受注は低迷期を脱したものの、価格競争を回避しているデジタル家電関連からの受注が大幅に減少。海外(中国・香港)でも昨年来の景気悪化による受注減少に価格競争回避の影響も加わって、全ての分野で売上減となった。一方、販売費および一般管理費の圧縮や生産体制の再構築、製造原価低減策の取り組みなどにより、営業損益は9,700万円の黒字(09年3月期:8,800万円の赤字)となったほか、経常損益は2億4,200万円の赤字(前年同期:8億3,100万円の赤字)と、経常赤字幅が大きく縮小した。

11年3月期は増収、経常黒字化の見通し

経常損益も黒字へ...今期については、売上高が10年3月期比7.1%増の見込みで、経常損益は1億5,000万円の黒字へ、最終損益(1億円の黒字。前期:3億6,900万円の赤字)についても黒字転換する見通し。ただ、今期の上半期(10年4~9月)については、会社側では売上高110億円(10年3月期比13.4%増)、経常赤字3億円(前年同期は4,600万円の黒字)と、利益面では厳しい状況が続くと予測。今後の重点施策として、国内プリント配線板事業では、生産現場力の強化で競争力のある製造原価の徹底追求のほか、同社独自開発の超柔軟配線板・透明フレキシブル基板の新たな市場の開拓(発光スピーカーや防水ICタグなど)、ハイブリッドカーや太陽光発電、LED関連商品など環境関連分野への供給拡大を図る。また、海外プリント配線板事業では、中国・珠海の自社工場生産品の確保と供給体制の増強、受注管理体制の強化、中国基板メーカーからの調達体制の再構築を進めていく。配当は前期と同じく無配を予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。